

第 1 回、第 2 回 泉大津市就学前施設再編検討委員会の報告

第 1 回 平成 2 9 年 1 2 月 2 5 日

【案件】

① 泉大津市就学前施設再編検討委員会設置要綱について

② 委員の指名

③ 委員長、副委員長の選出

要綱第 5 条 1 項に基づき委員の互選により選出。

委員長は長瀬委員（子ども・子育て会議会長）、副委員長は生田委員（校長会会長）に決定。

④ 本市就学前教育・保育施設の現状と課題について

【意見趣旨】

◎ 保育所は子ども達にとって安心して過ごせる場所であることは当然のこととして、保護者にとっても心の支えとなれることの必要性を感じています。

◎ 幼稚園は改善できる点は改善する等して、園児が通いやすい環境整備に努めていますが、様々な保護者ニーズを背景に幼稚園の就園率が低下していることを実感しています。

◎ 子どもを増やすことを考えないと、無償化は失敗に終わると思われます。子育てに関する保護者への支援は必要ですが、出産しようという気持ちを支援する施策が必要と思ひます。

◎ 子どもがくすのき認定こども園に通っているが、小学校へ行く行事があったり、普段関わるのが少ない短時間部の保護者とも密に関わり知り合いができたこと等について良かったと思ひています。

◎ これまでの教育と保育の蓄積を総合し、なおかつ要領指針改定の方向性にきちんと沿った形で運営することが大切かと思われます。

第 2 回 平成 3 0 年 3 月 9 日

【案件】

① 泉大津市の就学前教育・保育施設の適正規模について

【意見趣旨】

◎適正配置について検討する上で、多様なニーズに応えるには認定こども園の推進は必要と感じています。

◎当園で休日保育を利用された場合は、できるだけ平日の登園を休む等して子ども達と関わる時間を確保するように努めて欲しいと伝えています。

また、園で子ども達を保育することによって虐待の未然防止に結びついている一面もあるかと思えます。今後、適正配置について検討をすすめる上で、教育と福祉の両面から見て良い型を目標として考える必要があると思えます。

◎家庭のみではできない経験の場をもたせることが就学前施設には求められているのかと思われます。

◎3 クラス程度が最も運営し易いクラス数と思われます。小学校の1クラスと幼稚園の1クラスは意味が異なるかと思われ、特に集団での人間関係の構築が就学前施設の大きな目的と思われます。

◎少人数に対して手厚く関わることも大切かと思われますが、子ども達が園生活でどういった経験を積んで成長するのか、保育内容と子ども同士の関わりの部分の比重が大きいため、集団の育ちを踏まえた適正規模の検討が必要です。

◎3 歳児の20人以下が適切と感じます。基準未満のクラスが多いが、3 歳児に関しては園児数が少ない方が充実した教育・保育に結びつくと思います。支援が必要な3 歳児も多いため、少人数で落ち着いた環境を整備することが求められます。

◎3 歳児については1クラス20人程度が適正と思われます。

◎適正配置については、1小学校区に施設が偏らないような配慮は必要と思います。そういった意味で、現在の公立認定こども園の配置は地域的なバランスがとれていると思います。

◎公立、民間を合わせると、各中学校区にバランスよく就学前施設が設置されていることが資料からも確認できます。

◎5 歳児と1年生は特に子ども達の育ちの接続が重要となり、そういった接続を実現しやすい配置と規模を保護者のニーズを把握しながら計画することが重要となります。